

ARCH プロジェクト・ASEAN 災害医学ジャーナル(AJDHM)編集会議に参加しました (2024/9/24-26)

テーマ：ASEAN の災害医療標準化プロジェクトの学術的向上
会場：ガジャマダ大学、ジョグジャカルタ、インドネシア

2024 年 9 月 24 日に、ガジャマダ大学医学部において、ASEAN 災害医療標準化プロジェクト（ARCH プロジェクト）の活動の一環である ASEAN 災害医学ジャーナル（ASEAN Journal of Disaster Health Management: AJDHM）の編集会議に、災害医学研究部門の江川新一教授（災害医療国際協力学分野）が編集委員（Associate Editor）として参加しました。

ARCH プロジェクトは、わが国とタイの2国間協定にもとづいて 2016 年から開始され、災害が多発する ASEAN 地域における災害保健医療対応の標準化と、加盟各国の災害保健医療対応能力の向上を目指して現在第2期目（ARCH2）として継続されています。

ASEAN 災害医学ジャーナルは、ASEAN 地域における災害医療対応（Disaster Health Management: DHM）を学術的に研究し、発信するためのプラットフォームとして創刊されるジャーナルで、2025 年 1 月に第 1 巻を発刊する予定です。江川教授は、災害医学および医学全般に関するジャーナルの編集長、副編集長などの経験を生かして ARCH プロジェクトの対外的な発信のあり方、ジャーナルのあり方について JICA の諮問委員として早期から関与してきました。

今回の編集会議は2回目であり、オンライン投稿査読システム、論文採択の意思決定、ジャーナルの継続性などについて話し合われました。ARCH プロジェクトが ASEAN の災害医療対応の核として持続可能な体制をとるために、ASEAN 災害医療対応研究所（ASEAN Institute of Disaster Health Management: AIDHM）が 2023 年 10 月に設立されています。AJDHM の編集発行事業は AIDHM によって行われ、継続されていきます。AIDHM は学術的な能力向上のため、学術論文執筆ワークショップを5週間連続で開催し、若手研究者の論文執筆能力を高めています。また、ASEAN 加盟国で災害医療の共同研究プロジェクトも進行しており、その成果も第1巻に掲載される予定です。

ASEAN の災害医療対応が向上し、標準化されることは、災害多発地域として自助共助公助の能力を高めるだけでなく、近隣国であるアジア・オセアニアにもよい影響をもたらします。災害による健康被害は、社会の健康水準に大きな影響を受け、これまでは外傷や感染症が大きな問題でしたが、どの国も高齢化が進むこれからは、生活習慣病やメンタルヘルスの問題がより大きな課題になっていきます。災害の中で病院や医療福祉施設が機能しつづけてはなりません。武力紛争や原子力発電所事故、サイバーアタックなどの複合的で新しい形のハザードとその健康被害に対して柔軟に対応可能な保健医療体制が求められています。

文責：江川新一（災害レジリエンス共創センター、災害医療国際協力学分野）
(次頁へつづく)



AJDHM

ASEAN Journal of Disaster Health Management

ASEAN 災害医学ジャーナル編集委員（上）とロゴ